

第 363 回昭和の森自然観察会

昭和の森をぐるっと一回り

芳我めぐみ（千葉市）

日 時：2022 年 5 月 8 日（日）10：00～12：00 天候：曇りのち晴れ

参加者：19 名（大人 14 名 子ども 5 名）指導員 4 名

担当指導員：伊藤・芳我

今回の観察会は新緑の昭和の森をぐるっと回り、出会えた動植物を観察しながら歩こうというのが主旨です。挨拶の後 二班に分かれて出発しました。出発直後、植込みの中から伸びに伸びたカラスビシャクの花が多数顔を出しています。別名のヘソクリの由来（農家の人が漢方薬になるのでこれを売ってへそくりにした）を話しました。谷津田（菖蒲田）へと下ると男の子兄弟は早速トンボ捕りに行ってしまいました。シオヤトンボ、シオカラトンボを捕まえたので皆で観察。クロコノマチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ナナホシテントウ、ニホンカワトンボ… 次から次へと見るものが出現します。

ここで谷津田の新緑を眺め「緑」は何種類あるか数えて（愛でて）もらいました。若芽色、若葉色、若苗色、萌黄色… 表す色名も多種ですが、目に映る木々の緑も樹木ごとに違っています。皆さんには何種類に見えたのでしょうか？ ビオトープに近づくとオオヨシキリの声。初夏を告げる声で嬉しい。田んぼにはオタマジャクシ、メダカ、シュレーゲルアオガエルの声。土手にはノアザミの花。子どもたちはここで充分時間が欲しいところだけど第 3 駐車場に向けて出発しました。

駐車場の脇を通り疎林広場で持参した 4m の紐を出しました。紐で四角形を作ってもらいその中の植物は何種類あるか探してもらいました。見つけた種には目印に割りばしを立てました。ムラサキサギゴケ、カントウタンポポ、シロツメクサ、トボシガラ… 1 班は 12 種、2 班は 16 種を見つけました。狭い面積の中に沢山種類があったことも感じてもらえたかな？ 観察会開始前に太陽の広場で同じくらいの面積には 5 種類ほどしか生えていませんでした。人の立ち入りの多少、草刈りの頻度、同じ草原でも違うことが実感できたのではないかと思います。坂を下り竹林へ。下見（1 週前）でテープを巻いた 1.3m 位の竹の子は 3m 位に伸びていました。筍の字は竹と旬（10 日）の組み合わせ。あっという間に成長する意味だと伊藤さんの説明に皆さん納得です。

坂道を登ってゴールの展望広場へと急ぎました。ここで今日最後の観察物。見事に花を付けたトチノキです。その周りに多数の実生苗。一つ掘ってトチの実のどこから芽と根が出ているのも観察しました。

緑の中歩くのは楽しい。虫の話聞けてよかった。木の話がおもしろかった など参加者の方からの感想をいただきました。



小さな花が咲いているよ！